

平成27年度 政務活動報告書（1回目）

会派又は議員名 清風

政務活動期間	6月24日～6月26日（3日間）
政務活動先	徳島県神山町、高知県高知市
政務活動参加者	稲村議員、古谷議員、市川議員、岡野議員 山田議員、山崎議員、佐藤議員、後藤議員（8名）
政務活動項目	○NPO法人グリーンバレーと連携・協働について ○人口減少対策（移住・定住促進）や雇用創出について など
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別添のとおり

当別町議会議長 後藤正洋 様

平成 27 年 7 月 8 日
会派清風 会派長 稲村勝俊
会派新風 会派長 山田 明

研修報告

研修参加議員

会派清風

山田明議員・山崎公司議員・後藤正洋議員・佐藤立議員

会派新風

稲村勝俊議員・古谷陽一議員・市川正議員・岡野喜代治議員

研修先とスケジュール

日付	旅程・研修先	備考・対応者
6月24日(水)	石狩当別(石狩太美)駅→(札幌駅経由)→新千歳空港駅	JR
	新千歳空港→(羽田経由)→徳島空港	日本航空
	徳島空港→(レンタカー)→神山町役場	10人乗り1台
	【15:30～17:00】 神山町役場研修	後藤正和町長 相原浩志議長 粟飯原一議会事務局長 尾西逸夫産業観光課長 高橋成文産業観光課長補佐(兼商工観光係長)
	神山町内で宿泊	神山温泉 ホテル四季の里
6月25日(木)	【10:00～12:30】 NPO法人グリーンバレー研修 (サテライトオフィス等視察含む)	大南信也理事長
	神山町→(レンタカー)高知市	高速経由
	高知市内で宿泊	西鉄イン高知
6月26日(金)	高知市内→(レンタカー)→土佐山	
	【9:30～13:30】 NPO法人土佐山アカデミー研修 (土佐山地区内視察含む)	高橋幹博理事長 吉富慎作事務局長 山本剛事務局次長
	土佐山→(レンタカー)→高知空港	
	高知空港→(羽田経由)新千歳空港	日本航空
	新千歳空港駅→(札幌駅経由)→石狩当別(石狩太美)駅	JR

研修目的

行政と民間(NPO)が一体となって地域資源を活用して人口減少に取り組む徳島県神山町および

び高知県高知市土佐山の先進的な事例を学ぶことで、当別町の今後の人口減少対策に活かすことを目的とする。

研修内容

神山町役場

日時・会場

6月24日(水)15:30～17:00 神山町役場会議室

対応者

後藤正和町長・相原浩志議長・粟飯原一議会事務局長・尾西逸夫産業観光課長・高橋成文産業観光課長補佐（兼商工観光係長）

内容

■神山町の基礎情報

- 高齢化率47%
- 昭和30年に5村が合併して神山町が誕生。当時の人口21,000人→現在6,000人弱。平成3年までは1万人を確保していたが、以降急速に減少。人口減に比べると世帯数はそれほど減っていない。
- かつては林業中心の町。自由化の影響で衰退。25社→8社に減少。
- 平成16年から町内に光回線を整備。
- 観光入り込み客数100万人/年
- 神山温泉・道の駅は指定管理で同一事業者へ委託運営。神山温泉は黒字経営を継続
- サテライトオフィス事業は、全ての町民の理解を得ている訳ではない。それはやむを得ない。
- 町内にNPOは3つ。加えて介護保険の地域支援事業を担うNPOを新たに設立する。
- 視察受け入れ状況。396団体2,446名（26年度）
- 徳島市方面ヘトンネルが5年前に開通。徳島市への所要時間が60分→40分に短縮。
- 町内のイベントを小さなものを含め徳島市他各所（近隣道の駅など）にチラシを設置して告知している。
- 平成の合併は、徳島市および石井町に申し入れたが不調。
- 職員は最大で187名いたが、現在は100名程度。
- 山林の大半は人工林。手入れは全く出来ていない。民間事業者は0社で森林組合のみ存続。
- 近年は獣害が深刻化（猿・猪・鹿・狸・ハクビシン・カラスなど）
- 後藤町長は現在4期目。
- グリーンバレーのバックアップを役場がしている。
- 「イン神山」は当初アーティスト情報を発信するために開設。
- 昭和初期には工場誘致も行ったが、進出した工場はすべて閉鎖された。

その他、参考資料参照

■質疑応答

□神山町の課題

少子高齢化。農林業の後継者不足。

しかし、町内の高齢者は元気。NPO 等の活動の中心は 60-70 歳代。アーティストインレジデンス事業を始めた方々がいま高齢者になっても活動している。今後は元気な高齢者が減っていく。10-20 年先は大変になるだろう。

移住者はあるが、それほど多くはない。サテライトオフィスへの U ターンは増えているが、町内全体ではそれほど多くない。

□今後の課題

町内イベント（観光）で儲けられるようにすること。町内各所で開かれているイベントはボランティアで開催しているものが多く若い人が次いでくれない。若い人が跡を継げるようにビジネス化しないといけない。グリーンバレーにはその点を期待している。

□行政とグリーンバレーとの関係

相互に相談しながら活動している。

グリーンバレーは趣味の延長でスタートしたような活動。町全体で取り組むというものではない。活動拠点がなかったため、平成 20 年から農村環境改善センターの管理を指定管理で委託した。

□グリーンバレーへの補助金

農村環境改善センターの指定管理 1,300 万円/年

移住交流支援センターの委託 330 万円/年

グリーンバレーはその他多くの委託事業を受託して運営しているようだ。

□移住交流支援センターをグリーンバレーに委託した経緯

アーティストインレジデンス事業で空き家の斡旋・調整の経験を積んでいた。

□道の駅

徳島市からの入り込みが多い。近隣市町村からのリピーターが多い。休日は瀬戸内沿岸からも。3 月下旬～5 月がピークで 2-3 万人/日くることも。

直売所は農家 32 軒が出品。町内産の農産物に限定。

売上 14,600 万円。平成 13 年 8 月に開業、平成 20 年がピーク（町全体で 102 万人の入り込み）でやや減少（平成 24 年は町全体で 98 万人）。

□観光政策

町内の小さなイベントを含め案内。とにかく何でも告知する。案内チラシは春と秋に各 25,000 部作成。道の駅・サービスエリアなどに配置。チラシは最初、梅祭りの案内だったがそこに情報を載せるように↓。

新聞記者と仲良くする。情報を積極的に提供して、イベントの予告記事を掲載してもらえるようにする。記事が不足するときにはネタを提供する。

イベントの主体は地域の方々。行政は広報などの応援をするという体制。

行財政改革のなかで、地域団体への補助金を一斉に 0 円にした。これによって町民主体の動きがはじまった。

ポイントは「危機感」。町内でも山奥の集落の方が危機感があり、積極的に活動している。

研修の様子



神山町役場での研修

参考資料

- 四国・徳島県神山町 人も自然もあたたかい町ーかみやまちょう 平成27年度（神山町産業観光課）
- 神山町イベント情報2015春
- 神山町観光ガイド

NPO法人グリーンバレー

日時・会場

6月25日(木)10:00～11:30 神山町農村環境改善センター

6月25日(木)11:30～12:30 神山町内視察（えんがわオフィス・神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス）

対応者

大南信也理事長ほか

内容

■活動の概要

- 活動のきっかけは「面白くならんかな～」という思いから。
- 活動自体は20年以上継続しており、8年前から「創造的過疎」をキーワードにしている。農業に偏らない多様な働き方が出来る町を目指している。
- サテライトオフィスは若者が町に戻ってくるためのメニューの1つ。
- 今後はインキュベーションの場を目指していきたい。
- 1991年の活動開始以降1997年まで大きな変化はなし。1997年の国際文化村委員会で10-20年後の町の姿を想像してそれに対して必要なことをするように考え方を変えた。
- アイデアキラーを撃退することが必要（出来ない理由ではなく出来る方法を考える。とにかくはじめる）

- アートインレジデンス。素人だからアートは磨けないが、アーティストは磨けるはず。
- 移住希望者の登録用紙。夢や志、能力などを記入してもらおう。不動産の希望聞いてもそれにあった物件は紹介できない。不動産屋でもない。
- サテライトオフィスはつくろうとしてできたものではない。自然発生的なもの。
- 価値判断を相手にゆだねることが大切（こんなぼろぼろの家は借りてくれないよね。と決めてしまわない）
- 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス（コワーキングスペース）は縫製工場を改装。グリーンバレー・町・県が300万円ずつ出資。
- 分け分からないものでも10年続けていけば文化になる。
- どんな資源があるかではなく、どんな人が集まるかが大切。
- 町民に分かりやすいメッセージを出すことが大切。

その他、参考資料参照

■質疑応答

- 町内で活動が広がったきっかけは？

1999年から徳島県のALTの受け入れを始めた。2泊3日で民泊。毎年50人くらいの外国人がくる。これで住民がよそ者に慣れた。

- 活動がここまで拡大した理由は？

成功体験を共有した少人数のグループが存在したこと。青い目の人形の里帰りプロジェクトと一緒にやった仲間が民間や行政で要職に就き、今の活動の原動力となっている。

視察

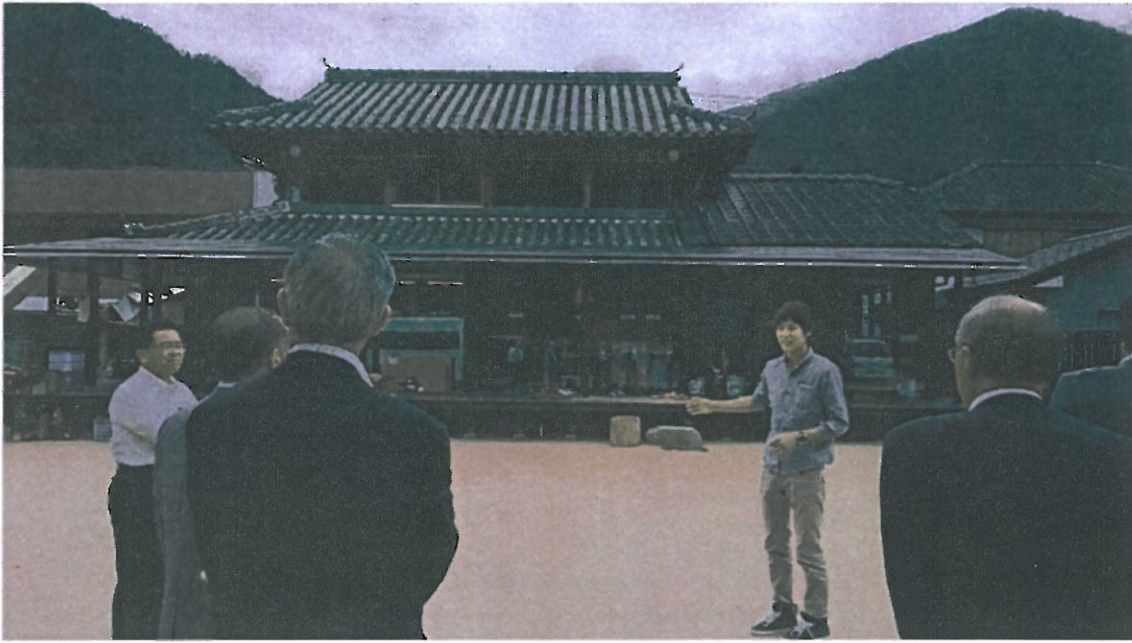
■えんがわオフィス

■神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス

研修の様子



大南理事長による研修



えんがわオフィスの視察



神山バレー・サテライト・コンプレックス（コワーキングスペース）視察



神山バレー・サテライト・コンプレックス内部

参考資料

■神山プロジェクト～創造的過疎から考える地方創生～（NPO法人グリーンバレー）

NPO法人土佐山アカデミー

日時・会場

- 6月26日(金)9:30～11:00 土佐山夢産地パーク交流館かわせみ
- 6月26日(金)11:00～12:00 土佐山地区内視察
- 6月26日(金)12:00～13:30 オーベルジュ土佐山

対応者

高橋幹博理事長・吉富慎作事務局長・山本剛事務局次長

内容

■高知県について

- 共働き世帯が多いため、全国と比べて1人あたり所得は低いが世帯収入は多い。
- 県内23市町村がいわゆる「消滅可能性都市」

■土佐山について

- 2005年に高知市に吸収合併される。
- 市街地の標高は240m、一番高いところは1100m程度
- 土佐山地区の人口は約900人で、面積の94%が森林。
- 高知市の水源地帯であり、昔から川を汚さない有機農法が盛ん。
- 自由民権運動発祥の地であり、「教え教わる」風土が根付いている。

■土佐山アカデミーの活動

- 山の経験や自然の恵みを取り入れて、地域で様々なプロジェクトや生業を主体的に立ち上げられる場所を目指す。
- 実務は移住者が中心に行う一方でNPO法人理事には地域住民が入ることで地域との

連携を図っている。

「学ぶ→暮らす→創る→育てる」のサイクル

アカデミーに参加し「学んだ」人が移住を希望し「暮らす」。そこで仕事を「創る」。さらに企業から研修のオファーがあり「育てる」へ

2013年から活動開始。当初は3ヶ月の泊まり込み企画を行ったが参加のハードルが高かった。

2014年には2泊3日の研修を4回（春夏秋冬）行った。山の生活の知恵にアカデミックな学習をセットしたプラン。地域住民を講師とすることで、補助金を地域に流すルートを作る。

その後、地域で活動する最初のハードルを下げることを目的に「Workstay」を実施。

つづいて、起業支援プロジェクト「EDGE CAMP」に発展。参加希望40名→13名が参加（26歳～51歳）。期間は半年で、最低月1回土佐山に宿泊。土佐山のものを使って起業することが条件。日本財団の支援を受ける。

その他、地域おこし協力隊や県職員の研修も受託。

企業の社員研修も受託（地域唯一のスーパーの活性化策をプレゼンさせる）

高知県からの委託事業が多い。

委託費の金額は高知市が最大（年間1,300万円程度）

今後の計画（進行中を含む）

かっこいい隠居生活～隠居バージョン。土佐山で仲間を創る学びのツアー

大人の秘密基地プロジェクト～間伐とツリーハウス。2020年の東京オリンピックの観客を高知へ誘導したい。

クリエイター一本釣り～社会起業家にテーマを投げかけて、土佐山での活動に参画してもらう。

地方創生一斉。全都道府県から地元のソーセージを選定して47本のセットを。

土佐山アカデミーの事務局3名が中心となり活動し、地域住民に「参加してもらい、仲間になってもらう」という外部との連携を意識している。

■移住の状況

現在の交流人口は約6500人

移住者23名（20～30歳代中心で女性が多い）

移住待機3名（空き家がないため）

高知市が子育て世帯専用住宅を10軒新設（単身者は入居不可）

■課題

高知市の受託を受けているが、「土佐山にばかり税金を使っている」と市民から指摘されることもある。

インターネット環境の整備がまだ不十分

現在年間事業費2,600万円のうち1,300万円が市からの補助・委託。補助金0を目指すわけではないが、自主事業を増やしたい。

■質疑応答

土佐山地区の課題とその原因は？

人口減少および担い手不足。特に60歳未満がきわめて少ない。地域の誇りが失われていることが要因では。

□「社会学一体」とは？

一言で言えば「村づくりは人づくり」。ただ明確な定義が決まっているわけではない。

□土佐山小中一貫校との連携は？

「土佐山学」という授業を4コマ担当しているほか、コミュニティスクールの委員に入っている。今後は「土佐山学」の授業全体編成をアカデミーで行うことを考えている。

□財源について

企業研修の受託を増やし、自主財源を増やしたい。しかし、補助金を受けることで市のチェックを受けるというメリットもあるので補助金0円を目指すわけではない。

□NPOの課題

収益構造と人材確保。あせらず1つずつ階段をのぼるしかない。なお今回対応下さった山本事務局次長は土佐山アカデミーに研修プログラムに参加したことがきっかけでNPOに転職。企業研修の専門家。

□移住者の出身地は？

半数が関西、関東が30%程度。短期プログラムの参加者は関東が多い。

参考資料

□土佐山アカデミー法人概要

研修の成果

今回の徳島県神山町および高知市土佐山の研修により、地域活性化・人口減少対策の方向性を学ぶことが出来た。そのなかでも、重要と考える点はこの4点である。

□成功体験を共有する少人数のグループの存在

神山町のグリーンバレーの事例のように、成功体験を共有する少人数のグループが存在すると、お互いに協力して活動を続けることが出来る。島根県海士町での地域活性化の事例でも青年団の仲間（人形劇で全国優勝）が活動の中心となっていた。

□地域活性化には10~20年かかる

活性化の成功例と言われている神山町のNPOグリーンバレーも当初10年弱は目立った成果がなかった。青果はすぐにできるものではないので、楽しみながら継続することが必要。

□危機感を共有すること

神山町は、財政再建の一環で町内の団体への補助を一律カット。これが住民の心に火をつけた。住民・企業・行政・議会が危機感を共有するための仕掛けも必要。

□地域の課題を資源と捉えて売り出す発想

人口減少、スーパーの経営危機、空き家、不便な生活など、従来課題と捉えられていることも、都会の住民から見ると魅力的な資源になりうる。土佐山アカデミーの取り組みは今後、地域活性化の柱になり得る。

□地域住民には「参加してもらおう」ことから

まちづくりの活動は楽しみながら出なければ継続しない。住民の方にまず参加していただき、楽しいから仲間になるというサイクルをつくる必要がある。

これらのポイントをふまえつつ、今後は当別町の実情にあわせて当別町なりの地域活性化・人口減少対策に取り組んでいきたい。

平成27年度 政務活動報告書（2回目）

会派又は議員名 清風

政務活動期間	7月9日～7月10日（2日間）
政務活動先	旭川市、東川町、東神楽町
政務活動参加者	稲村議員、古谷議員、岡野議員 山田議員、山崎議員、佐藤議員、後藤議員（7名）
政務活動項目	産業用大麻について
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別添のとおり

当別町議会議長 後藤正洋 様

平成 27 年 7 月 31 日
会派清風 会派長 稲村勝俊
会派新風 会派長 山田 明

研修報告

研修参加議員

会派清風

山田明議員・山崎公司議員・後藤正洋議員・佐藤立議員

会派新風

稲村勝俊議員・古谷陽一議員・岡野喜代治議員

研修先とスケジュール

日付	旅程・研修先	備考・対応者
7月9日(木)	当別町役場→(レンタカー)→藤田観光ワシントンホテル旭川	10人乗り1台
	【17:00～18:00】 一般社団法人北海道産業用大麻協会 研修	菊地治己代表理事
	旭川市内で宿泊	藤田観光ワシントンホテル旭川
7月10日(金)	藤田観光ワシントンホテル旭川→(レンタカー)→松家農園(東川町)	
	【9:00～10:30】 有限会社松家農園研修	菊地治己代表理事(一般社団法人北海道産業用大麻協会) 松家源一社長(松家農園)
	松家農園→(レンタカー)→北海道健誠社(東神楽町)	
	【13:00～14:30】 株式会社北海道健誠社研修 (ケンセイシャフォレスト及び本社)	川東雅宜所長
	北海道健誠社→(レンタカー)→当別町役場	

研修目的

北海道の新たな農作物として注目されつつある産業用大麻の試験栽培、ならびに木質バイオマスを活用したクリーニング工場の現状を学ぶことで、当別町の今後の農林業・再生可能エネルギー活性化に資することを目的とする。

研修内容

一般社団法人北海道産業用大麻協会

日時・会場

7月9日(木)17:00～18:00 藤田観光ワシントンホテル旭川会議室

対応者

菊地治己代表理事

内容

■産業用大麻について

□北見市の栽培事例では乾物重量52.7t/ha。デントコーンが11.4t/ha、甜菜22.6t/ha程度。1日に2-3センチ成長する。成長スピードが早いので除草が不要。

□大麻はかつて日本で25,000ヘクタール栽培していた。道内では最大1,600ヘクタール。1948年に大麻取締法が施行され、急速に減少。現在国内では5ヘクタール・栽培者50人のみ。

□栃木県は家内工業的に行っているが、栽培者は減少傾向。反当たり50～100万円の収入。

□欧州では補助金の効果で1995年以降栽培面積が急増。1998年に補助金が廃止され減少したものの、近年再び増加に転じた。2014年に18,000ヘクタール。

□繊維のほか、強化プラスチック・断熱材・チップなど約25,000種類もの利用方法がある。

□産業用大麻に含まれるマリファナの成分（THC）は0.3%未満。危険性はほぼない。簡単に測定できるキットを海外から輸入。

□THCとは別の成分（CBD）がパーキンソンやアルツハイマーに効くとの研究が欧州で発表されている（2014年のEIHAでは27の発表のうち8つがCBD関係）。現在CBDはグラム2万円程度で取引されている。

□500～1,000ヘクタールあたり1つの加工工場が必要。工場設置には投資額3億円程度必要。

□機能性食品としても注目されている。成分は大豆に近い。

□日本は40～50トンの種を生薬として輸入している。芽が出ないようにすりつぶして輸入。

■東川町での試験栽培について

□東川では研究者免許を取得。同免許は国内で400人程度が所持。裁判免許はなかなか取得できない。

□生育はとても良いが、気温が低いため種が未熟。現在栽培しているのは栃木県の品種。

■道内の動き

□網走、白糠、天塩が試験栽培にむけ動き出している。

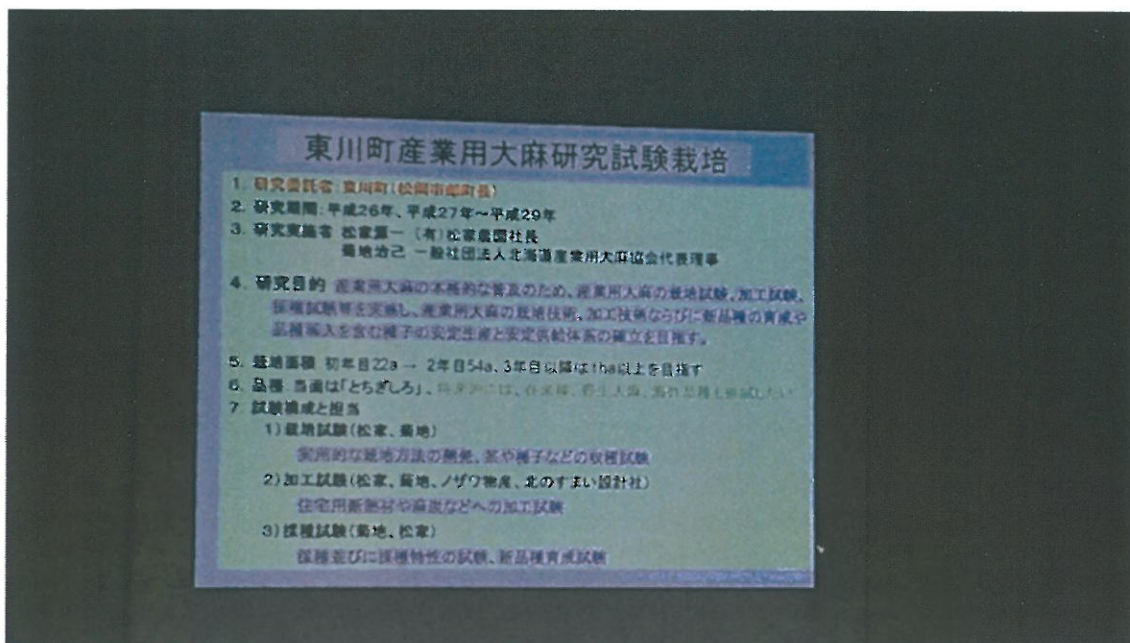
研修の様子



菊地代表理事による研修



菊地代表理事による研修



菊地代表理事による研修

参考資料

- 平成26年度東川町産業用大麻試験栽培の結果と今後の計画について（一般社団法人北海道産業用大麻協会・松家農園）
- 東川町における産業用大麻検討に係る対応経緯
- 新聞記事ほか

有限会社松家農園

日時・会場

7月9日(木)9:00～10:30 松家農園（東川町西町7丁目25番1号）

対応者

菊地治己代表理事（一般社団法人北海道産業用大麻協会）・松家源一社長（有限会社松家農園）

内容

■産業用大麻について

- 軽い分かさばるため輸送費が高くつく。地元で使う（加工する）ことを考えるべき。
- 大麻の葉は栽培場外に持ち出し禁止
- 栃木県では2.5m程度に成長する7月中旬に収穫し、繊維として利用。花が咲く前に収穫してしまう。
- 栃木県の品種は雌雄別株。欧州で使われている品種は雌雄同株で成熟するまで成長させている。
- 道内の野生大麻には8月頃に成熟するものもある。
- 現在まで作物としての研究はほとんどされていない。

□乾燥させると茎は1t/反程度収穫できる。茎は2,000円/kg程度で取引されないと採算が合わないが、現時点では数十円程度。

□細かなチップを作るには専用機械が必要。

□炭・麻酢液などを試験的に制作。

□家1軒の断熱材を生産するには1ヘクタール程度必要

■栽培について

□畝に植えたら風に弱かった。

□花は9月頃に咲く。それからの期間が寒いので種が未熟になってしまう。今年はあらたに大型のハウスを建てる（投資額1,000万円程度）。経営体育成の補助（30%）を利用。

□農業系の補助金が使えないので、中小企業向けの補助金を利用している。

□密植した方が、高く成長する。

□畑の周囲に2.7mの柵を作らなければいけない（道の要綱）。コスト・作業効率の面で不利。

□周辺農家の理解を得ることが難しい。

研修の様子



松家農園大麻試験圃場前



松家社長による説明



大型ハウスの内部



大麻の生育の様子



大麻試験圃場研究管理等

株式会社北海道健誠社

日時・会場

7月10日(金)13:00～14:30 ケンセイシャフォレスト (東神楽町19号)・北海道健誠社本社
(東神楽町北2条西3丁目)

対応者

川東雅宜所長

内容

■ケンセイシャフォレスト (木質チップ製造工場)

- 木工場の跡地を利用。
- 受け入れる原料は産廃と林地残材（購入している）
- 破碎は産廃に釘が含まれるためハンマータイプの大型機械（定価1.2億円）。
- 原料は概ね60km圏内から調達している。1日あたり4トラック10台程度。
- 健誠社本社（クリーニング工場）
- クリーニングの顧客はホテル50%程度、病院30%程度、残り20%程度
- 8トンチップボイラーおよび6トンチップボイラーを各1台設置。
- 同時に蒸気を利用して発電も行う。160kw発電。工場全体では470kw利用。
- 排熱は外部に放出
- 冬用にチップを乾燥させる設備も設置（化石燃料利用）。近年は夏にチップを製造しているため乾燥設備は使っていない。
- チップボイラーのコストは重油の半額以下。クリーニング業は原価の10%程度が燃料代。
- 平成19年に8tボイラーを設置。NEDOの実証事業を活用し50%負担。当初はチップ工場（ケンセイシャフォレスト）がなく、全量買い取り。
- 平成23年に6tボイラーを増設。
- チップ工場は平成21年に競売で旧木工場を取得し、22年に産廃の許可を得て操業開始。
- 冬は産廃が出ないので林地残材を購入。ただし水分が50～70%と高いため半年～1年の感想が必要。含水率40%以下が目標。
- 月1回ボイラーを停止して灰だしを行う。

研修の様子



ケンセイシャフォレスト（チップ製造工場）



河東所長による説明



チップ原料（建築廃材等）の搬入



破碎機



生産されたチップ



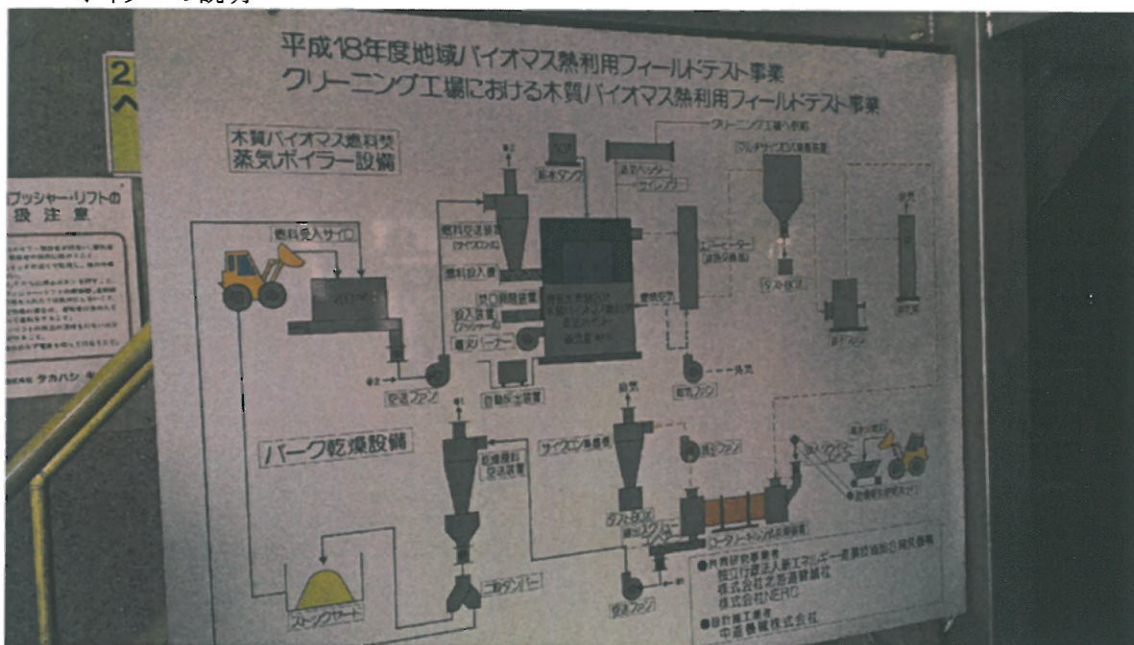
健誠社本社に設置されたボイラー棟



ボイラー脇のチップ保管場



ボイラーの説明



ボイラー説明図

研修の成果

産業用大麻について

- 産業用大麻は加工用作物や燃料用作物としてはもちろん、土壌改良材としても有望な作物であるが、大麻取締法などによる規制が厳しく現時点では栽培は困難である。
- しかし、欧州や米国など海外では栽培が行われているほか、北海道内でも栽培にむけた動きがはじまっている。
- 今後、栽培技術（特に種）の確立や加工工場など流通ルートの確立が必要。

□産業用大麻はおおきな可能性を持つ作物であるので、当別町での試験栽培の可能性を検討する必要がある。

木質バイオマスの活用について

□木質バイオマスは、地域にある原料を効果的に活用することが成功のポイントとなる。特に年間を通じて安定した原料の確保が重要。

□チップであれば重油と比べてランニングコストを下げる事が可能だが、ペレットでは割高になるおそれがある。

□設備投資は、国の補助制度を活用することが望ましい。